

# 大阪都心再生シンポジウム 2004

## 開催報告（提言とりまとめ）

閉塞感が続く大阪にあって自然発生的な街なかの活気は、これからの都市再生の大きな可能性を秘めています。街なかの最新の動きを紹介するとともに、そのキーパーソンや専門家、行政、経済界の有志が集い、新しい動きを創り出そうと本シンポジウムを開催いたしました。前半は「水都大阪と中之島再生」と「上町台地と街なか再生の胎動」の2つのパラレルセッションに、約100名の登録メンバーによる2テーマ・6グループのワークショップを行いました。後半は有識者9名のパネラーのもとに約200名が参加し、パネルディスカッションを行いました。ここに議論の概要をとりまとめてご報告いたします。

このとりまとめが、議論した趣旨をふまえ各人がそれぞれの場で実践されることの一助になればと期待しています。

### キーワード(提言の中からいくつかピックアップしました)

- ・ 人間を大切にする、市民文化を豊かにする都市再生を
- ・ アイデアの時代ではなく、実践の時代
- ・ 住民、企業、自治体、国などの関係者すべてが「協働」していく仕組みを構築しよう
- ・ 定常的に舟運を大阪全体に広げ、協働方式による舟運活性化の動きを続けよう
- ・ 中之島西部に新しい顔をつくり、八軒家浜ではもう一段上の規制緩和を実現させよう
- ・ 伝統芸能のゆかりの地を、まちのストーリーとして活かそう
- ・ 阪大病院跡で、常にイベントが行われる本格的な賑わいの場を
- ・ 住みごたえのある街づくり
- ・ 新参の若者とアクティブシニアが活躍するまちづくり
- ・ 顔の見える新しい船場の風景づくり
- ・ 船場ブランドの情報発信を強化しよう
- ・ 人の魅力＝まちの魅力となっているのがミナミ
- ・ 奥が深い、人の暖かみがあるミナミの新たなイメージを打ち出そう

と き：2004年6月8日(火) 13:30～17:00

と ころ：大阪市中央公会堂

主 催：(財)大阪地域振興調査会 (株)ダン計画研究所

後 援：近畿地方整備局 近畿経済産業局 大阪府 大阪市  
大阪商工会議所 (社)関西経済同友会

## 目 次

1.大阪都心再生シンポジウム 2004 の提言	1
2.プログラム	3
3.ワークショップの概要	4
4.ポスターセッション	10

# 1.大阪都心再生シンポジウム 2004 の提言

## 1. 市民連携による継続的な活動を

明治以来の経済偏重・人間軽視の都市政策を抜本的に改め、人間を大切にする、市民にとっておもしろく有意義なまちづくり、市民文化を豊かにする都市再生をねらうべきだ。そういう意味で、各セッションの「まず行動ありき」の実践的努力を高く評価すると同時に、都市政策の理論と実践とをオーバーブリッジすることを期待したい。理論知と経験知を統合しながら進めている本日の試みを、将来のまちづくりに具体的に生かすことが大切だ。物事を深刻に考えすぎない大阪人の醒めた理性を大切に、単に感覚的なオモシロオカシイだけで終わらせるのではなく、知的で理論に裏打ちされ、人々の知的関心を惹きつけるインタレスティングな大阪にするよう、継続的な活動を目指してもらいたい。しかも本日のように多元的な市民連携によって。

## 2. 「水都大阪と中之島再生」

10 数年前から大阪リバーフロント研究会など水都大阪再生の取り組みに関しては、色々なアイデアが出尽くした感がある。アイデアの時代ではなく、実践の時代に入っている。遊び心を発揮し、水辺の生活を楽しみながら船遊びを実践している人や、ビジネスとしてチャレンジしている舟運事業者は、水都大阪推進の原動力である。公と民がバラバラに行動している現状を改め、舟運や沿川の街づくりにおいても住民、企業、自治体、国などの関係者すべてが「協働」していく仕組みを構築しよう。

また、水と陸の接点であり、熊野古道とも結びつく八軒家浜は、水都大阪再生の象徴的拠点として大きく本格的に再生しよう。

### 官民協働方式による舟運復活と舟遊び

川から見たまちの美しさがないと、川遊びは成立しない。まちのエンターテイメントや賑わい、観光資源の掘り起こしなどまちとの連携により、川もまちも変わる。大阪人の遊び感覚で川を使うことから始めよう。

定常的に舟運を大阪全体に広げるにはどうするか。企業・経済団体、公共による大阪街あそびキャンペーン推進協議会が企画した「なにわ探検クルーズ」の成功はヒントであり、交通手段としての舟運の事業採算性、観光路線としての事業成立性が必要である。公と民でどう負担するのか議論を深め、協働方式による舟運活性化の動きを続けよう。

大川・中之島には船だまりがない、接岸しやすい護岸が少ないなど、ハード面の整備や水門の開閉、船着場を利用しやすくする手続きの簡素化など、舟運の基盤づくりに公民協働で取り組もう。

### 川に顔を向けたまちづくり

水辺に顔を向け、川とまちの関係性を高めることが必要。個人の思い、水辺を担う人の活動、企業と行政の様々な動きが、水辺＝裏という感覚を転換させつつある。川中心のまちづくりが始まっている。

中之島のブランド化をめざし、再開発を目標にした協議会活動を実践。歴史的建造物のライトアップなど光を活かしたまちづくり、賑わい・集客をはかるまちづくりなど短期的・長期的な取り組みにより、中之島西部に新しい顔をつくり、中之島を再生させよう。

八軒家浜では水辺の開発と一体となった建物・空間づくり、地域の人々が本気になるまちづくりを目指している。いっそうの賑わいや集客を促進するため、もう一段上の規制緩和を実現させ、住民・企業・行政が協働し、大阪らしい良い知恵を出そう。

## 文化の情報発信と賑わい創生

大阪の夕暮れ文化の再生をめざした、サラリーマンの手作りによるリバーカフェの成功体験を活かそう。大川の花見をはじめ、大阪ナイトカルチャーの推進を図る様々な取組<シアターシティ構想 大阪発の映画世界水フォーラム>リバーサイド・イベントを継続的に実践しよう。

まちのストーリー性を活かしていく時代。歌舞伎の船乗り込みに見るように、歌舞伎や文楽等伝統芸能のゆかりの地を、まちのストーリーとして活かそう。1400年前からの堂島のルーツ<堂島薬師堂>を活かしたイベントの実施<お水汲み祭り>は、ソフトパワーの結晶である。地域の祭りとして根付かせ、国際交流都市大阪の拠点として育てよう。

大阪からの情報発信するコンテンツファクトリーとして、阪大病院跡地での川をいかしたウッドデッキ、朝日放送のスタジオ、多目的ホールや関西ゆかりの伝統芸能教室などを設けて、常にイベントが行われる本格的な賑わいの場を創生しよう。

## 3. 「上町台地と街なか再生の胎動」

上町台地や船場では歴史のあるまちが、今ひとつ大きな打ち出しができてこなかった。時代の流れに乗らなかった、乗れなかったことに対する危機意識がまちの活動家から強く伝わってきた。良質のまちのストックを生かそうとする動きがでてきた。

街なかでは賑わいの再生が着実に進んでおり、大きな街の転換がなされようとしている。地域で活動する新規の参入者や老舗の経営者など多彩な人材が集まっており、こうした人々のパワーを最大化していこう。

### 空堀再生とアクティブシニアによる上町台地ブランドの創造

まちを探索し、まちの資源を再発見しながら住みごたえのある街づくりを進めよう。家に住むのではなく、まちに住むことを再認識しよう。それぞれの街作りグループが相互に刺激しあう関係を大事にして、それらをつなぐ二階建ての組織を充実しながら新しい街への再生を図ろう。

長屋の再生活動、直木三十五記念館の立ち上げなど、上町台地の歴史的蓄積や文化を大事にしながら街なかの暮らしを再生しよう。

団塊世代、元気な高齢者をまちの戦力と捉え、アクティブシニアが活躍するまちづくりを進めよう。街なかの魅力ある居住を支えるビジネスの振興や行政を巻き込んだ社会システムづくりを通じて、上町台地の高質な居住地としてのブランドを創ろう。ひとりひとりの意識を高め、実践することこそ重要。

### 街の顔が見える船場再生の街づくり

商都大阪の原点であり、格式の高いエリアながら、シャッター通と呼ばれるほど衰退の危機にあった船場だが、近年ようやく、船場の再生を目指した動きが活発化。船場元気祭りで1万2千人を集客したイベントをはじめ、船場文化の再現をめざす船場賑わいの会、三休橋筋発展会など、20くらいの活動が動いている。船場にはグリッド状の創生以来の町割りがあるのだが、船場の顔が見えなくなっている。立ち止まって町の顔を見る場所もないので、新しい船場の風景づくりが必要だ。

御堂筋の賑わいづくり、SOHOマンションやコンバージョン、インキュベーションビルなど、新しい民間ベースの動きを活かしつつ、皆で将来像を描き、船場ブランドの情報発信を強化しよう。

### 人の魅力によるミナミの街なかイメージの創生

ミナミは計画的につくられてきたまちではなく、人の魅力=まちの魅力となっているのがミナミの特徴。人の顔が見えるのがミナミの魅力である。人を育てるしくみが残っている。こだわりのマスターがいるバーで、その人の影響を受けたり、憧れることで次世代が育っていく。最初はミナミに入っていくのは勇気があるが、いったん入ってしまうと暖かい。育ててくれるおばちゃん、おっちゃんがまちにいる。

まちの特徴を活かした地域発のコンテンツづくりが次の新しい可能性。ミナミには、エリア別に個性が異なり、7つの顔があるといわれ、その個性を際立たせたい。全国第4位の密度で集積するIT企業や広告制作会社の力を活かし、大阪市の「デジタルときわ荘」の取り組みやショートショートフィルムフェスティバル等の動きもある。日本橋にもミニシアターが新しくオープンする。

ミナミのブランドイメージを高めよう。外からみると「汚い」「怖い」というイメージがあるのは否めない。そのイメージを打破して、実は奥が深い、人の暖かみがあるミナミの新たなイメージを打ち出そう。

以上 (文責事務局)

## 2. プログラム

### 大阪の都心再生

—— 「街なか」の潜在力と感性イノベーション ——

日時 2004年6月8日(火) 開場 13:00  
開会 13:30~17:00  
会場 大阪市中央公会堂 3階中集会室及び小集会室 地階大会議室

### プログラム

主催者あいさつ 13:30~13:40 3階中集会室

#### 第1部 ワークショップ 13:50~15:20

2つのサブテーマのグループに分かれての平行セッションとします。  
地域のまちづくりキーパーソンを中心に関係者の登録メンバーで討議します。

セッションA 「水都大阪と中之島再生」 3階小集会室

セッションB 「上町台地と街なか再生の胎動」 地階大会議室

#### 第2部 パネルディスカッション 15:30~17:00 3階中集会室

ワークショップA及びBの議論を踏まえて会場の方々と共にパネル討議します。

##### ・コーディネータ(敬称略・順不同)

大久保 昌一 大阪大学名誉教授・(財)大阪地域振興調査会会長

##### ・パネラー

石原 武政 大阪市立大学 教授・(財)大阪地域振興調査会理事長

土井 幸平 大東文化大学 教授・(財)大阪地域振興調査会理事

佐藤 茂雄 京阪電気鉄道(株)社長

増田 昇 大阪府立大学 教授

河内 厚郎 演劇評論家

高田 光雄 京都大学 教授・(財)大阪地域振興調査会理事

澤木 昌典 大阪大学 助教授

橋爪 紳也 大阪市立大学 助教授

会場では地域のまちづくり活動を紹介するポスターセッション(展示)を同時開催

### 3. ワークショップの概要

2つのパラレルセッションにより、テーマに関わるキーパーソンを中心に討議しました。

#### パラレルセッション

##### セッションA 「水都大阪と中之島再生」

水都再生構想の策定、花と緑光と水の懇話会提言から1年以上が経過し、関連企業や地域のNPOなどによる舟運、沿川の観光・まちづくりが本格化しつつある。

本ワークショップでは、これまで一緒に議論されることのなかった、行政・経済界・NPOなど様々な人々が一同に会し、立場を超えてそれぞれの視点から水都大阪や中之島エリアの再生について共に考え、議論を深め、具体化の道を探る。

- 座長 : 京阪電気鉄道(株) 佐藤 茂雄 代表取締役社長
- アドバイザー : 大阪大学 鳴海 邦碩 教授
- コーディネータ: テーマ「舟運復活と舟遊び」 大阪府立大学 増田 昇教授  
                  テーマ「川に顔を向けたまちづくり」 大阪大学 澤木 昌典助教授  
                  テーマ「水都大阪の賑わい創生」 演劇評論家 河内 厚郎氏
- 人数 : 3テーマ×キー報告者(4~5名)及び参加者(約20名) = 62名参加

##### セッションB 「上町台地と街なか再生の胎動」

大阪都心の人口回復、カフェやショップの来店による賑わい創出、IT関連企業や専門サービス業の集積による都市型産業の成長等、近年、様々な力強い動きが見られる。

本ワークショップは、緑と歴史文化に恵まれた上町台地をはじめ、伝統ある商業地域が再生しつつある船場、アメリカ村、堀江における「街なか」再生の動きと関連する地元の取り組みを概観するとともに、多様な取り組みのコラボレーションの可能性やさらなる活性化に向けた方策について、産学官の有志が共に考え、交流を深める。

- 座長 : 大阪市立大学 石原武政教授(財団法人大阪地域振興調査会理事長)
- 総括アドバイザー: 大東文化大学 土井幸平教授  
(前大阪市立大学工学部教授、財団法人大阪地域振興調査会理事)
- コーディネータ: 「上町台地」グループ 京都大学 高田光雄教授(財団法人大阪地域振興調査会理事)  
                  「船場」グループ 大東文化大学 土井幸平教授  
                  「ミナミ」グループ 大阪市立大学 橋爪紳也助教授
- 人数 : 3テーマ×キー報告者(4~6名)及び参加者(10数名) = 46名参加

#### 各セッションの進め方

アドバイザーより導入スピーチ(テーマ解説など)

サブテーマ別のパラレルセッション

(3テーブル同時進行: キー報告者より活動紹介と全員参加による議論を1枚のキーワードマップにまとめる)

意見交換(コーディネータ、アドバイザーのコメント)

座長総括

## セッションA 「水都大阪と中之島再生」

### テーマ1:「舟運復活と舟遊び」

大阪都心部や他都市と結ぶ舟運事業、また、広域・都心の舟遊びについての動きを紹介し、大阪舟運の現状と課題を踏まえて船運事業やNPO等による水面利用などの方向性について議論する。

コーディネータ:大阪府立大学 増田 昇教授  
キー報告者:伴ピーアール(株)代表取締役 伴 一郎氏  
西日本旅客鉄道(株)執行役員大阪支社長 土屋 隆一郎氏  
一本松海運(株)代表取締役 一本松 榮氏  
料亭「花外楼」店長兼営業部長 明石 佳将氏  
大阪薬科大学 阿部 功助教授

### テーマ2:「川に顔を向けたまちづくり」

川を軸としたまちづくりの研究や、中之島周辺地域における開発動向などを紹介し、まちなみや景観の現状と課題や、川を軸としたまちづくりの方向性について議論する。

コーディネータ:大阪大学 澤木 昌典助教授  
キー報告者:NPO水辺のまち再生プロジェクト 代表理事 中谷ノボル氏  
京阪電気鉄道(株)中之島新線建設室 部長 向井 寛行氏  
関西電力(株)中之島開発プロジェクトチーム マネージャー 吉田 陽彦氏  
(株)大林組本店開発企画部副主査 門重 学氏

### テーマ3:「水都大阪の賑わい創生」

水辺の立地を活かしたカフェやリバーパレード等のイベント、北新地で行なわれた「お水汲み」など、水都の賑わい創生に向けた動きを紹介し、水都大阪らしい賑わいの方向性について議論する。

コーディネータ:演劇評論家 河内 厚郎氏  
キー報告者:IAO竹田設計企画部部長 都市大阪創生研究会 森山 秀二氏  
(財)大阪21世紀協会水都再生企画室 グループ長 小山 雅司氏  
サントリー(株)大阪秘書部秘書役 佐々木 洋三氏  
朝日放送(株)報道情報局局次長 小関 道幸氏  
大阪商工会議所地域振興部課長 堤 成光氏

## セッションB 「上町台地と街なか再生の胎動」

### 「上町台地」グループ テーマ:「上町台地ブランドの創造」

空堀商店街界隈、夕陽丘ストリート、筆ヶ崎プロジェクト等、都心居住の先導エリアとして、今、最もホットな上町台地ブランドを提案。また、教育、健康医療、文化等の新サービス業の産学クラスター創生についても議論。

コーディネータ:京都大学 高田 光雄教授  
キー報告者:からほり倶楽部代表理事(六波羅真建築研究室) 六波羅 雅一氏  
上町台地からまちを考える会事務局長 山口 洋典氏  
グラフィックグラフィティ谷町建築研究会 内田 利恵子氏  
大阪商工会議所経済部経済担当 玉川 弘子氏

### 「船場」グループ テーマ:「船場再生の街づくり」

繊維問屋が建ち並ぶ格式高いエリアながら、「シャッター通り」と呼ばれるほどの衰退の危機にさらされた船場。しかし、三休橋筋再生、船場デジタルタウン等の力強い動きが始まっており、今後の再生推進方策について議論する。

コーディネータ:大東文化大学 土井 幸平教授  
キー報告者:フジ興産(株)・船場賑わいの会 藤井 聡一郎氏  
大阪ガス(株)近畿圏室 山本 茂雄氏  
辰野(株)せんば GENKIの会 岡本 浩典氏  
アミング開発(株)代表取締役専務 谷口 康彦氏

### 「ミナミ」グループ テーマ:「ミナミの街なかベンチャー」

心斎橋筋、アメリカ村、南船場、堀江と様々な魅力を放つミナミ。ここは同時にITベンチャーやファッション、カフェ等の「創業」のまちであり、クリエイター達が集まるアートの拠点でもある。多彩な魅力を持つミナミの次代の可能性と新たな戦略について議論する。

コーディネータ:大阪市立大学 橋爪 紳也助教授  
キー報告者:(株)大丸心斎橋店周辺店舗部長 北川 公彦氏  
アメリカ村の会 尾崎 幸一氏  
堀江ユニオン世話人 能口 仁宏氏  
(株)シンキオン代表取締役 土田 磯美氏  
大阪市計画調整局計画部情報化施策担当課長 森田 至彦氏  
大阪ショーツョートフェスティバル実行委員会ゼネラルプロデューサー 河野 清磨氏  
サントリー(株)不易流行研究所研究員 奥村 睦美氏

## 4. ポスターセッション

### ポスターセッションA 水都大阪と中之島再生 出展者

出展団体	出展内容
NPO水辺のまち再生プロジェクト	・「きっと水辺が好きになる」をテーマにプロジェクトをご紹介。 「水辺MAP」展示販売も。
大阪商工会議所	・「大阪ナイトカルチャー事業」のご紹介。
土佐堀研究会	・「八軒家浜ワークショップ」の活動のご紹介。コミュニティ新聞や報告書等の展示。
光のまちづくり企画検討委員会	・同委員会では「花と緑・光と水」懇話会の提言の具現化に向けて「大阪のライアップ 戦略・光のまちづくり計画」をとりまとめ。その中から代表的な「光のまちづくり」イメージマップを展示。
京阪電気鉄道(株)	・中之島新線の概要とそのPR。中之島新線建設工事におけるイメージアップのご紹介。
堂島薬師堂「お水汲み」実行委員会	・「堂島薬師堂お水汲み祭り」イベントのご紹介。当日使用の法被やのぼり等を展示。
西日本旅客鉄道(株) 大阪支社	・おおさか街あそびキャンペーン(春)、なにわ探検クルーズ(春・夏)のご紹介。
リバーカフェ実行委員会	・ビデオによる「リバーカフェ」のご紹介をはじめ、ビデオCD、Tシャツの展示販売も。

### ポスターセッションB 上町台地と街なか再生の胎動 出展者

出展団体	出展内容
大手前大学社会文化学部 人間環境学科 川窪研究室	・空堀周辺の町家と、ほこらの変遷についての調査パネルの展示。
大阪ガス(株) (御堂筋まちづくりネットワーク)	・御堂筋の歴史と現在、「御堂筋ネットワーク」が作成した御堂筋の近未来の将来像を紹介。
大阪市 計画調整局 情報政策課	・「ユビキタスネットワーク普及促進プロジェクト@おおさか」御堂筋実証実験のご紹介。
大阪商工会議所	・「元気なシニアが住まう大阪市構想」、「日本アクティブシニアビジネス振興フォーラム」のご紹介。
からほり倶楽部	・「惣」「練」の再生前後の写真展示と上町台地の高低模型や長屋の軸組模型の展示。
graphiQ graffiti & Y's 建築工房	・「安堂寺界限って」をテーマに、今も残る昔の風景やその断片をご紹介。
サントリー(株) 不易流行研究所	・報告書「大阪ミナミに見る盛り場のダイナミズム」、単行本「変わる盛り場」のご紹介。
船場GENKIの会	・「せんばGENKIまつり」の報告と「船場GENKIの会」の現在の活動状況をご紹介。
船場・賑わいの会	・船場賑わいの会のプロフィールと活動のご紹介。船場賑わい絵図の展示も。

#### 編集後記

シンポジウムにご参加いただいたコーディネータ、キー報告者、議論参加者、後援いただいた方々に感謝々々。きわめて限られた時間での欲張り気味のプログラムでしたが、熱心な議論と巧みなコーディネートにより、充実したシンポジウムになりました。ダン計画研究所の30周年記念事業としても、不朽のイベントになりました。シンポジウムの提言を、日ごろの業務に活かしていかなばと気持ちを新たにしています。

(池端 猛)

**財団法人大阪地域振興調査会**

大阪市中央区大手通 1 - 2 - 10

**株式会社ダン計画研究所**

大阪市中央区大手通 1 - 2 - 10

TEL 06 - 6944 - 1173 (代)

FAX 06 - 6946 - 9120